



五十沢小学校だより

いのち かがやく

No.6

令和7年9月29日



【子どもの笑顔】を支える【保護者、
地域の笑顔】と【教職員の笑顔】

文化芸能の地 五十沢

五十沢小学校には、歌舞伎クラブがあります。小学校で歌舞伎に触れられるなんてなかなかないことだと、着任時、驚きました。限られた回数の中で練習をし、発表の場は「五十沢地区芸能祭」の日です。

この「五十沢地区芸能祭」について歴史を紐解くべく、長年、五十沢公民館長（現在の五十沢会館）をされた江部孝一さんに記録写真を見せていただくと共にお話を伺いました。

今回で第72回となるそうです。戦後80年を考えると戦後復興の中、この地のみなさんの生活の中に根付く芸術芸能への思いや熱量、そして地域の和の大きさや強さを感じずにはいられません。

書道作品や生け花、現在も子どもたちが参加している俳句、手芸や絵画、美しい手仕事作品、立派な収穫物等の展示コーナーには、所狭しと地区的皆さんの作品が飾られていました。ステージでは、三味線や歌、踊り（藤原流のお師匠様がいらしたそうです）、子ども舞踊、太鼓、詩吟、バンド演奏等、老若男女問わず披露し合い、拍手を贈り合っていたようです。その年の文化功労章の表彰もあったくらい、芸能に力を入れる地域ということが良く伝わります。

この芸能祭に、子供歌舞伎が舞台に立つようになったのはいつのころか、聞くことができませんでしたが、五十沢地区には「五十沢歌舞伎」という地歌舞伎がありました。地域の演者が集まり、歌や笛、三味線等の音楽を担当する人々、演技を指導する人々、衣装や舞台をつくる人々、みんなで歌舞伎舞台を作り上げ、その世界をみんなで楽しむ文化がある地だったのです。

歌舞伎は、独特の発声、言い回し、所作、作品理解と表現など、奥深いものです。演目は様々で、人の心の機微にふれたり、誰でも経験したことのあるような場面があったり、面白おかしいくだりがあったりし、人々を引き付け、その芸術性の美しさとともに、400年以上たった今でも、ますます人々の心をつかむ日本の代表的な芸能です。



その伝統ある芸能に携われる五十沢に生まれた子どもたちは、本当に恵まれていると私は思います。現在では、「五十沢歌舞伎」としての活動は、当校のクラブ活動のみとなっているようです。長年指導してくださっている江部さんも、お一人で指導を一手に引き受けてくださっており、ご苦労をおかけしているところですが、来年度の指導はどうかな、といよいよ引き際を考えておられるようです。もったいないなあ、五十沢地区の子どもたちが、歌舞伎という素晴らしい文化芸能を誇らしく思い、引き継いでほしいなあ、そんな風に思います。



今年の歌舞伎クラブは、6年さん、5年さん、4年さん、4年さん、4年さん、4年さんの6人です。演目は「白波五人男」。限られた練習の中で、精一杯表現します。五十沢芸能の歴史、思い、日本文化の一端に触れられるすばらしさを堂々と演じ、楽しんでほしいと思います。10月19日(日)五十沢地区芸能祭でぜひご覧ください。その日は、PTA作業、選挙と忙しい日ですが、ぜひ、ご予定ください。11:00ごろ発表予定です。

自分で自分を伸ばそうとする心を育む

「なりたい自分を自分でつくる」「自分をつくるのは自分」ということを子どもたちに繰り返し全校朝会等で伝えています。学校だより第1号でも学校経営方針としてこの言葉をスローガンとしていることをお伝えしました。「失敗しても立ち上がり、やり直すたくましさ」「『自分はできる、こんなにいいところがある』という自己肯定感」「自分で成長を実感する」このような姿を目指して教育活動を行っています。

子どもたちは、授業でも学校行事でも様々な活動を経験し、自分を振り返ることで、「このことは自分にとって価値があったんだ」と気付き、積み重ねることで力がついていきます。

9月25日(木)に行われた六日町地区親善陸上大会を経験した6年生の言葉を紹介します。

- ・自分の本気を超えた!(でも自分は)どうやって自分の本気を変えたんだろう。
- ・諦めないこと(が大切だと思った。)
- ・陸上を通して、自分は自信を持てるようになりました。
- ・絶対に走りきるということをがんばりました。
- ・ベストを更新できてすごく嬉しかったけど、3位ですごく悔しかったです。けれど気付いたら他校の子が跳べたときに普通に自分も嬉しかったので、前の自分より成長できたかなと思います。

子どもたちは、順位がつくものや自分の力がはっきりと結果として見えるものに対して、精一杯がんばりたくなる、がんばろうとするものです。そして「できた」「できなかった」の結果で、喜んだり落ち込んだりします。(大人もそうかもしれませんね。)しかし、大切なのは結果ではなく、過程であり、その過程と結果から自分にとっての価値を見いだすことです。

6年生の言葉のように、たとえ結果はついてこなくても、「諦めない」自分に気付いたり、「自信を持てるようになった」と、努力してレベルアップした自分のを感じたり、これまでには、悔しい気持ちを引きずって自分以外のこと気に配れなかつたのに、他校の子の成功を喜んであげられたことに心の持ち方の成長を感じたりする。

格好つけたり簡単に諦めたりせず、精一杯の力を出したからこそ、感じるものであり、感じたことを言葉にしようと改めて考えたからこそ、気付けたことです。

教育活動の中で、このような経験をたくさん積んで、自分で自分のよさを感じ伸ばせるよう育んでいきます。ぜひ、その心になれるよう、地域、ご家庭でも、子どもの言葉を聴く、引き出すような働きかけをお願いします。そして、素敵な言葉や変化が見られたら、ぜひ、お知らせください。楽しみにしています。



なりたいじぶんをじぶんでつくる



第2回学校運営協議会 兼 五十沢の未来を語る会 9月24日(水)

コミュニティ・スクールの取組として、第1回学校運営協議会で出された学校、地域双方の課題を解決するために、「五十沢の未来を語る会」という名称で、会議を行いました。地域づくり協議会や育成会、五十沢会館の活動や学校ボランティア、また、地域の高齢者や子どもたちに働きかけて地域を盛り上げたいと自分たちで活動している方等から、現状を聞き、できそうなことは何か、知恵を出し合いました。一つ一つの団体でやることが難しいことも協力して行うことができたらいいな、と考えています。

興味があるな、どんな話かな、やりたいな、という方、まずは学校にお知らせください。お待ちしています。